

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370519

研究課題名(和文) 日本語指示詞の現場 指示用法における社会的・地域的変異の研究

研究課題名(英文) A study on social and geographic variations of the use of Japanese demonstratives

研究代表者

堤 良一 (TSUTSUMI, Ryoichi)

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：80325068

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：日本語の指示詞の現場指示用法について、主に九州、長崎県、台湾台北市での調査を行い、空間認識の違いを明らかにした。さらに、現場指示用法との関連を見るために、直示用法のひとつであるとされる記憶指示の用法の違いを調査し、標準語との違いを明らかにした。この研究により、現代日本語の、特にソの使い方に変化が現れ始めていること、記憶指示においては従来の研究でいわれていることに加え、感情的な要因が使用の可否に影響を与えることなどが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This research investigated how the use of Japanese demonstratives varies, depending on the social and the geographic factors. According to the experiments we had in Nagasaki university and Okayama university in 2014 and 2015, we discovered that their dialects affect to some extent the use of "So"-series demonstratives especially. We also studied the use of "a"-series demonstratives used in memory use. Our investigations strongly suggest that the "direct experience" is not needed as strongly as the previous studies have claimed. Instead, some kind of emotional factors of a speaker affect the selection of demonstratives in such dialects mentioned above.

研究分野：日本語学

キーワード：指示詞 現場指示 直示用法 記憶指示 方言

1. 研究開始当初の背景

指示詞の使用には、標準語では見られない特異な用法が様々見られる。本研究では特に九州地方の方言について、経験したものである情報に対してア系指示詞で指せるのはなぜなのかということ、方言学、歴史学、理論的な考察を融合的に行うことを目指した。

2. 研究の目的

指示詞の使用について、これまで標準語で言われていたことがどれほど方言に適用可能なのか、また適用可能でないとすれば方言はどのような指示詞の様相を呈するのか、そしてそれはどのような制限や意味体系をもって使用されているのかを精査するため。

3. 研究の方法

アンケート調査と実験的手法による。

アンケート調査は、主に統語的な条件(主語位置かそうでないか)、意外性、親近感、文のタイプ(属性叙述文なのか、事象叙述文なのか)などを調べるために、各項目ごとに例文を作成し、それぞれの例文において、どの指示詞が使用できるかを選択式で問うている。

実験は、同じような条件の教室に同じ席、同じ配置に被験者を座らせ、それぞれの着席位置に置かれているクリアファイルを、被験者がどの指示詞を用いて指すかを記録したものである。

4. 研究成果

大きく2つのことを明らかにした。一点目は、現場指示の指示詞については方言によって、特にソ系指示詞の使用のされ方に違いがあること。岡山の被験者においては聞き手の周りの領域にもア系指示詞が用いられる傾向が、他の地域の被験者より顕著である。これらの要因については今後の研究により明らかにされなければならないであろう。

二点目はその違いと関連するかもしれないが、記憶指示のアの使用のされ方に方言によって違いがあることである。具体的には、これまで経験を基盤として成立するとされてきた記憶指示のア系指示詞が、必ずしも経験していなくても使用できるような方言が存在し、そのような方言では経験の代わりに意外性や親近感といったモーダルなファクターが使用の認可に関わる可能性を示唆した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

(雑誌論文)(計 13 件)

1. 長谷川哲子 「経験を語る談話における接続語の使用—『わたしのちょっと面白い話コンテスト』コーパスを資料とした考察—,『エクス言語文化論集』10, 2017, 111-133, 査読なし, 謝辞なし, オープンアクセス(予定)
2. 藤本真理子 「聞き手領域に関わるア系列の指示—中世を中心に—」, 青木博史・小柳智一・高山善行編, ひつじ書房, 『日本語文法史研究』3, 2016, 91-110, 査読なし, 謝辞無, オープンアクセスでない。
3. 岡崎友子 中古和文における接続表現について『コーパスと日本語史研究』2015, 71-92 (査読あり / 謝辞記載あり)
4. 長谷川哲子 留学生のライティングに関するピリーフ調査作成に向けて『e X エクス言語文化論集』9, 2015, 131-144, 査読なし
5. 堤良一 「そんな感じ」はブレイクダウンか? 『談話とプロフィシエンシー』2015, 84-111 査読あり / 謝辞記載あり
6. 堤良一 談話とコミュニケーション 鎌田修・定延利之・堤良一『談話とプロフィシエンシー』2015, 202-221, 査読なし
7. 堤良一・楊帆・鎌田修 感情・評価的意味を持つ文とプロフィシエンシー, 『日中言語研究と日本語教育』8, 2015, 38-48 査読あり / 国際共著/国際学会である / 謝辞記載あり
8. 堤良一 中国語母語話者の日本語使用における指示詞の直示用法 - 台湾での調査から - 2015, 2015年度台湾日本語教育研究国際シンポジウム 論文集 2015, 91-102 査読あり / 国際共著/国際学会である / 謝辞記載あり
9. 堤良一 [雑誌論文] ソンナ N の感情・評価的意味はどのように生じるか, 岡山大学文学部紀要 64, 2015, 57-68, 査読なし, 謝辞記載あり
10. 堤良一 「中国語母語話者の指示詞の使用実態 - 高橋調査法を用いた調査結果 - 」2014, 『岡山大学文学部プロジェクト研究報告書 22』「言語とコミュニケーション」22, 2015, 65-78, オープンアクセスとしている / 査読なし, 謝辞記載あり

11. 岡崎友子 「指示詞再考 コロケーション強度からみる中古のコノ・ソノ・カノ+名詞句」『日本語学』一二月臨時増刊号 11月増刊号 :2015, 139-150 査読なし、謝辞記載あり

12. 岡崎友子 「「カカレバ・サレバ」の歴史的用法と変化について」2014, 『文学論叢』89 : 118-98 査読なし、謝辞記載あり

13. 岡崎友子 指示詞系複合語について」2013, 『文学論叢』88: 27 - 44 査読なし

〔学会発表〕(計 15 件)

1. 長谷川哲子, 留学生の日本語ライティングに関するピリーフ調査-パイロット調査からの示唆-, 言語文化教育研究会第3回年次大会, 2017年2月26日, 関西学院大学, 国内会議, 招待なし。

2. 岡崎友子 「日本語指示詞における地理的・歴史的変異の研究」, 2016年4月30日(於: 大阪大学) シンポジウム「バリエーションの中での日本語史」大阪大学文学研究科日本文学・国語学研究室(共催: 土曜ことばの会)(登壇者、岡崎友子・堤良一・藤本真理子・バヤロドウルン) 招待

3. 堤良一 「直接経験」にもとづかない記憶指示用法について ~長崎方言調査で見えてきたもの~ 2016年4月30日(於: 大阪大学) シンポジウム「バリエーションの中での日本語史」大阪大学文学研究科日本文学・国語学研究室(共催: 土曜ことばの会)(登壇者、岡崎友子・堤良一・藤本真理子・バヤロドウルン) 招待

4. 堤良一 中国語母語話者の日本語使用における指示詞の直示用法 -台湾での調査から- 2015年度台湾日本語教育研究国際シンポジウム、東呉大学、2015年11月28日 国際共著/国際学会である

5. 岡崎友子・小林雄一郎 中古作品における接続表現の統計的分析 指示詞を中心に通時コーパス国際シンポジウム、国立国語研究所、2015年10月04日

6. 堤良一・楊帆・鎌田修 プロフィシェンシーと感情・評価の意味を持つ文 第10回OPI国際シンポジウム、函館国際ホテル、2015年08月02日 国際共著/国際学会である

7. 松丸真大 富山県庄川流域における疑問表現の分布 2015、言語地理学フォーラム、国立国語研究所、2015年06月07日

8. 松丸真大 方言教材の開発と方言教室の開

催 2015、日本方言研究会第100回研究会 50周年特別企画、甲南大学、2015年05月23日

9. 堤良一・岡崎友子 「ソ系(列)指示詞の記憶指示用法について」、日本語学会、早稲田大学、2014年05月16日 - 2014年05月17日

10. 竹内史郎・岡崎友子 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガノヲ、ソコデについて 日本語学会、早稲田大学、2014年05月16日 - 2014年05月17日

11. 堤良一 「そうだ! 京都行こう。」のソウは、何を指しているのか?」淡江大学における特別講演、台湾、淡江大学、2014年04月17日、招待講演

12. 岡崎友子 中古における指示詞系接続語 「カカリ」「サリ」を中心に、日本語文法学会、早稲田大学 招待講演 2013年12月1日

13. 堤良一 ソンナNの感情・評価の意味はどのように生じるか、日本語文法学会、早稲田大学 2013年12月1日

14. 岡崎友子 中古における接続語の使用傾向について 第四回コーパス日本語学ワークショップ 国立国語研究所 2013年9月5日

15. 堤良一 どの指示詞の使用が学習者にとって困難か? ~理論的記述を場面教育に利用する~ 特別シンポジウム「日本語の談話とプロフィシェンシー」、大学コンソーシアム京都 招待講演 2013年6月19日

〔図書〕(計 3 件)

1. 岡崎友子・森勇太(2016)『ワークブック 日本語の歴史』くろしお出版、全132頁

2. 梶別 感情表現辞典 2015
松丸真大(真田信治・友定賢治(編))
総ページ数 272
東京堂出版

3. 談話とプロフィシェンシー 2015
著者名/発表者名 鎌田修・嶋田和子・堤良一(編)
総ページ数 248
凡人社

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堤 良一 (TSUTSUMI, Ryoichi)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授
研究者番号：80325068

(2) 研究分担者

岡崎 友子 (OKAZAKI, Tomoko)
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：10379216

長谷川 哲子 (HASEGAWA, Noriko)
関西学院大学・経済学部・准教授
研究者番号：20368153

松丸 真大 (MATSUMARU, Michio)
滋賀大学・教育学部・教授
研究者番号：30379218

藤本 真理子 (FUJIMOTO, Mariko)
尾道市立大学・芸術文化学部・講師
研究者番号：10736276

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()